

稲取婦人学級資料の概要

稲取婦人学級資料は、学級の企画や運営等に携わった当時の文部省担当官塩ハマ子氏の関係者より寄贈された資料です。

その内容は、学級生による学習記録の綴り、学級生がグループで調査した手書きのデータや成果発表会のための大判のグラフ、学級生の感想文、実際に学級を運営した稲取町教育委員会の作成資料、および文部省作成資料など約150点の資料からなります。

稲取婦人学級とは

文部省が戦後、昭和29(1954)年度から31(1956)年度まで、静岡県稲取町教育委員会に委嘱をし、新しい学習内容と学習方法を試みた実験婦人学級です。特徴としては、以下のようなことがあげられます。

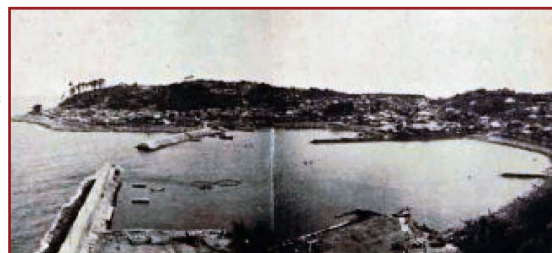
- ① 文部省と町の教育委員会・県社会教育主事・稲取町婦人会による組織的な協力によって学習課程表を作成し、運営組織を構成して実施した。
- ② 一斉講義ではなく、「話し合い」を重視し、運営のための役割を自分たちで分担し、学習記録を残し、レクリエーションを取り入れたグループ学習を行った。
- ③ 学習内容が農村漁村における生活改善に力点を置いていた。
- ④ 地域の実態や歴史について調査学習を展開した。
- ⑤ 町の小学校、中学校、高校の教員が助言者として関わっていた。

1月・2月は「婦人学級の月」

学級は農閑漁閑期にあたる1月から2月に週に2回から3回、夜間に集中して実施されました。これらの月は「婦人学級の月」と呼ばれていました。

参加者

参加者の年齢区分は、30歳代から40歳代が最も多く、「若い世代の主婦」の立場の女性たちを家族が応援して送り出しました。忙しい生活の中で自由になる時間、夜の7時から9時、時には10時過ぎまで学級が開かれ、地域によっては学級生は4キロを超える山道を歩いて通ったと記録されています。



昭和29年頃の稲取町
（『町の歴史』復刻版）



現在の稲取（現 東伊豆町稲取）
（東伊豆町役場ホームページ）